

海外情報

No.15

調査者	加茂智彦
情報ソースの刊行日	2020年4月22日
情報ソースの調査日	2020年5月1日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月6日
日本語タイトル	ニューヨーク市地域における COVID-19 で入院した 5700 人の患者の特徴、併存疾患、アウトカム
情報ソース	JAMA
情報のカテゴリー	疫学
発信地域	アメリカ
DOI	DOI: 10.1001/jama.2020.6775
URL	https://jamanetwork.com/journals/jama/fullarticle/2765184
要約	<p>アメリカのヘルスケアシステムにおける COVID-19 で入院した患者の臨床特徴、併存疾患、アウトカムについて調査した。</p> <p>3月1日から4月20日までの間にニューヨーク市の12の病院に COVID-19 で入院した患者を対象とした。</p> <p>結果：年齢の中央値は63歳、女性の割合は39.7%であった。合併症は高血圧(56.6%)、肥満(41.7%)、糖尿病(33.8%)の順で高かった。</p> <p>トリアージの時点では患者の30.7%が熱発、17.3%が1分間の呼吸数が24回以上、27.8%が酸素の補給が必要であった。</p> <p>アウトカムの評価は研究中に退院もしくは死亡した2634名に対して実施された。入院中373名(14.2%)がICUで治療を受けた。320名(12.2%)が人工呼吸器を使用した。81名(3.2%)が透析を受けた。そして553名(21%)が死亡した。人工呼吸器が必要であった患者の88.1%は死亡した。45人(2.2%)が再入院した。再入院までの中央日数は3日であった。</p>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<p>COVID-19 で入院した患者の大規模疫学データである。</p> <p>COVID-19 での入院した患者の傾向を知ることができる</p>